2013 年度 日台胡蝶蘭業者交流会議事録

一、時間：2012 年 3 月 1 日 午後 4 時

二、場所：中信桂田 HOTEL3 階ホール
〈台南市永康区永安一街 99 号〉

三、司会者：中華鉢花発展協会胡蝶蘭業者産売委員会長 林 欽勝
日本生花協会洋蘭部会胡蝶蘭部門長 尾崎 幹憲

四、司会者挨拶：略

五、報告事項：台湾胡蝶蘭温室近十年間環境制御システム実演

——国立中興大学 陳 加中 教授

六、意見交換

1. 日本と台湾の設備の格差は現実ですが、日本業者が契約的に注文を安定になれば、今後台湾業者も極力的に苗の品質をコントロールして、より安定した良品を日本に提供するようになります。
2. 日本と台湾の温室設備が少し異なるので、台湾の温室用 water wall 〈水壁?〉によって病虫害の予防に妨害あるではないかという心配が日本業者持っている。
3. 日本側：花芽を抑える温室内温度は 26~36℃であり、台湾側がしっかり温度管理して、花芽付いてないものを日本に輸出することが希望です。
台湾側：冬季 26~36℃を維持することによってコストが高くなるので、苗代の交渉余地希望です。
4. 世界中の胡蝶蘭売量が伸びているが、日本だけ変っていない原因が日本経済不景気以外、日本の一般家庭には花に使用率減り、胡蝶蘭に対する認識が薄いことも軽視できない、日本中の営業面も努力して、胡蝶蘭の認識を高めるように押し広める希望です。

七、最後の挨拶：略

以上